

## 新開門開通によりパナマ運河の通航料は微増、スエズ運河通航料は減少続く — 当協会会員の運河通航船実態調査結果 —

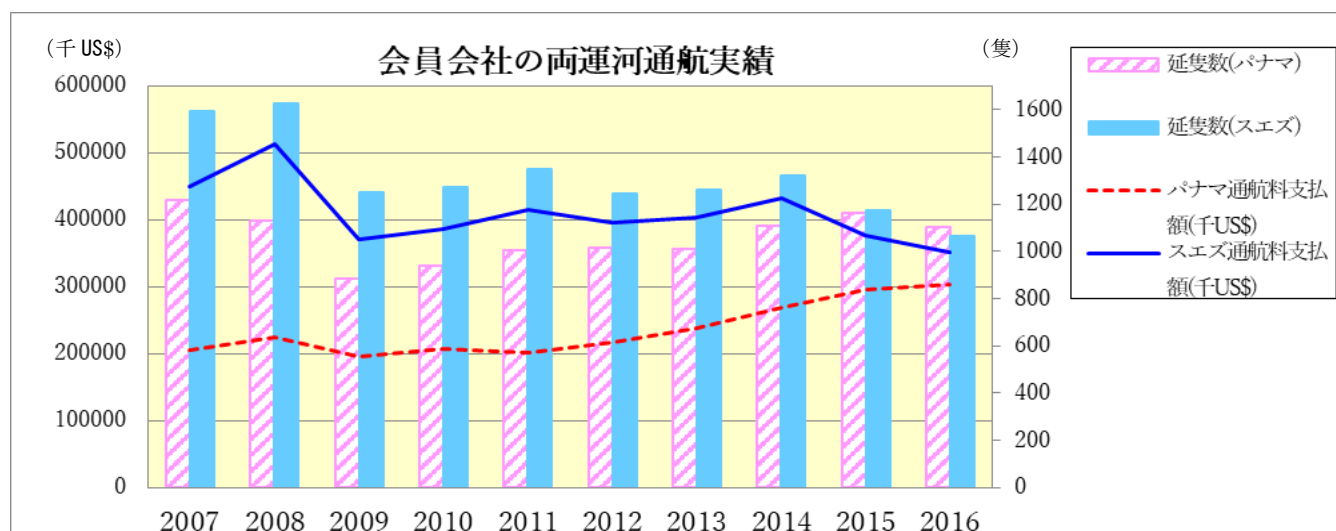
当協会は、毎年会員各社の運航船舶（外国用船を含む）について、パナマ・スエズ両運河に係る通航実績調査を実施しており、今般その結果をまとめた。

調査対象期間は、パナマ運河については2016年4月1日より2017年3月31日、スエズ運河については2016年1月1日より同年12月31日までとした（統計の連続性上）。また、パナマ運河では2016年6月26日に新開門が開通したことから、同運河に関しては新旧開門別にデータを取りまとめた。

なお、通航料については用船契約によって用船者等が支払う場合があることから、運河トン数や通航料が不明の例があったため、表中の実績は、調査回答船社が確認できる範囲で集計したものである。

調査の結果、当協会会員会社の運河通航料支払額は、パナマ運河については通航隻数は減少したものの、新開門の開通によりこれまで実績のなかった大型（ネオパナマックス）コンテナ船が通航したこと等の影響により前年比約2.7%増（米ドルベース）となった。一方スエズ運河については、通航隻数が微減、トン数は微増したが、通航料割引制度等の効果によって運河通航料支払額は約6.4%減（米ドルベース）となった。

概要は以下のとおりである。



注) 通航料不明や概算等があるため、グラフ中の隻数と通航料総額は対応していない

\*\*\*\*\*

### <パナマ運河>

#### a. 通航実績

パナマ運河の利用状況は、2016年6月に運用を開始した新開門、旧開門合わせた通航船社数が前年度比1社減の17社となり、利用隻数(延べ)については56隻減の1,104隻となった（内訳は新開門が231

隻、旧開門が 873 隻)。G/T ベース・D/W ベースではそれぞれ 55,203 千 G/T(2015 年 : 52,656 千 G/T)、46,207 千 D/W(2015 年 : 44,904 千 D/W) となった。

## b. 通航料支払実績(確認分)

コンテナ船、LPG/LNG 船以外の料率の基本となる通航船舶トン数(PC/UMS : Panama Canal/ Universal Measurement System※1) ベースでは 27,413 千トンとなり、コンテナ船のベースとなる TEU は 1,603 千 TEU となった。また、LPG/LNG のベースとなる立方メートル (M3) は 1,842 千 M3 となった。この結果、全体の通航料は前年 (295,525 千米ドル、概算値含む) 比約 2.7% 増の 303,478 千米ドルとなった。

### a. パナマ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2007	18	1,216	52,405	43,064
2008	19	1,129	48,952	45,087
2009	17	887	40,632	38,385
2010	17	940	40,263	36,866
2011	15	1,003	42,317	41,056
2012	18	1,016	43,368	41,084
2013	16	1,011	44,727	40,934
2014	17	1,106	48,856	44,540
2015	18	1,160	52,656	44,904
2016	17	1,104	55,203	46,207

### b. パナマ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	延千 M3	通航料	
					千 USドル	億円(参考)
2007	1,211	34,692	1,127	-	204,925	227
2008	1,100	28,442	1,123	-	224,246	225
2009	887	29,234	1,170	-	195,781	181
2010	940	27,154	1,019	-	207,716	177
2011	878	26,570	921	-	202,102	160
2012	871	27,359	965	-	216,335	180
2013	945	27,150	1,001	-	237,844	239
2014	1,088	30,038	1,301	-	268,615	297
2015	1,160	30,642	1,269	-	295,525	355
2016	1,027	27,413	1,603	1,842	303,478	336

注 1) 上記表 b. の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 a. 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 2016 年の通航料の円換算率は、2016 年 4 月～2017 年 3 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=110.85 円を採った。

注 3) 2005 年 5 月より、コンテナ船に対する通航料は、TEU 当たりの料金とする課徴方式に変更となったため、2007 年度調査から延 PC/UMS にはコンテナ船の分を含まないこととした。また、2016 年 4 月より、LPG/LNG 船に対する通航料が、M3 当たりの料金とする課徴方式に変更となったため、延 PC/UMS には LPG/LNG 船の分を含まないこととした。

注 4) 通航料は概算値を含む。通航料不明分については 0 とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

### c. 船種別内訳（2016. 4. 1～2017. 3. 31）

船種別延隻数は自動車専用船が2015年の446隻から350隻（約21.5%減）に大きく減少した。それに伴い、通航料も約21%減少し、2015年の120,739千米ドルに対し今年度は95,442千米ドルとなった。また、バルクキャリアも延隻数、通航料ともに11.7%減（2016年：293隻/39,926千ドル・2015年：332隻/45,218千米ドル）となった。一方で、拡張パナマ運河の開通により大型船の通航が可能となり、2016年度はLPG船が68隻通航した。ケミカルタンカーの延隻数も新旧開門合計で2015年の59隻から80隻（約35.6%増）へ増加し、通航料も6,249千米ドルから9,785千米ドル（約56.6%）増加した。

概算値を含むため単純比較は難しいが、通航料（全体）については、隻数減少にもかかわらず、微増する結果となった。これは、主として新開門開通による通航船舶大型化の影響が大きいものとみられる。

#### c-1. 船種別通航実績内訳【新・旧開門合計】

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	1	11	114	184
ケミカルタンカー	6	80	1,950	3,229
LPG船	6	68	3,161	3,392
LNG船	2	2	273	154
バルクキャリア	11	293	8,717	15,944
自動車専用船/RORO船	8	350	20,028	6,545
コンテナ船	6	273	20,373	15,993
一般貨物船	1	23	357	530
旅客船	0	0	0	0
その他船舶	1	4	230	236
合計	17	1,104	55,203	46,207

注)社数合計の17は、調査期間中にパナマ運河(新旧両開門)を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

#### c-2. 船種別通航料支払実績(確認分)内訳【新・旧開門合計】

(通航料=千 USドル)

船種	延隻数	延千PC/UMS	延千TEU	延千M3	通航料
タンカー	0	0	—	—	0
ケミカルタンカー	77	1,581	—	—	9,785
LPG船	31	—	—	1,842	7,384
LNG船	0	—	—	—	0
バルクキャリア	277	7,244	—	—	39,926
自動車専用船/RORO船	346	18,289	—	—	95,442
コンテナ船	273	0	1,603	—	148,714
一般貨物船	23	299	—	—	2,227
旅客船	0	0	—	—	0
その他船舶	0	0	—	—	0
合計	1,027	27,413	1,603	1,842	303,478

注 1)通航料は概算値を含む。通航料不明分については0とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

注 2)上記表 c-2.の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 c-1.記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 3)コンテナ船、LPG/LNG 船に対するPC/UMSの取り扱いについては表 b. 注 3)ご参照。

c-3.船種別通航実績内訳【新開門通航分】

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	0	0	0	0
ケミカルタンカー	1	3	35	60
L P G 船	6	68	3,161	3,392
L N G 船	2	2	273	154
バルクキャリアー	1	3	152	287
自動車専用船/RORO船	3	9	630	176
コンテナ船	3	142	13,209	7,799
一般貨物船	0	0	0	0
旅客船	0	0	0	0
その他船舶	1	4	230	236
合計	8	231	17,690	12,104

注)社数合計の8は、調査期間中にパナマ運河新開門を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

c-4.船種別通航料支払実績(確認分)内訳【新開門通航分】

(通航料=千 USドル)

船種	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	延千 M3	通航料
タンカー	0	0	—	—	0
ケミカルタンカー	3	30	—	—	147
L P G 船	31	—	—	1,842	7,384
L N G 船	0	—	—	—	0
バルクキャリアー	3	132	—	—	721
自動車専用船/RORO船	8	399	—	—	2,733
コンテナ船	142	—	1,120	—	92,745
一般貨物船	0	0	—	—	0
旅客船	0	0	—	—	0
その他船舶	0	0	—	—	0
合計	187	561	1,120	1,842	103,730

注 1)通航料は概算値を含む。通航料不明分については0とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

注 2)上記表 c-4.の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 c-3.記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 3)コンテナ船、LPG/LNG 船に対する PC/UMS の取り扱いについては表 b. 注 3)ご参照。

**c-5.船種別通航実績内訳【旧開門通航分】**

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	1	11	114	184
ケミカルタンカー	5	77	1,915	3,169
L P G 船	0	0	0	0
バルクキャリアー	10	290	8,565	15,657
自動車専用船/RORO船	5	341	19,398	6,369
コンテナ船	3	131	7,164	8,194
一般貨物船	1	23	357	530
旅客船	0	0	0	0
その他船舶	0	0	0	0
合計	15	873	37,513	34,103

注)社数合計の15は、調査期間中にパナマ運河旧開門を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

**c-6.船種別通航料支払実績(確認分)内訳【旧開門通航分】**

(通航料=千 USドル)

船種	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	通航料
タンカー	0	0	—	0
ケミカルタンカー	74	1,551	—	9,638
L P G 船	0	—	—	0
バルクキャリアー	274	7,112	—	39,205
自動車専用船/RORO船	338	17,890	—	92,709
コンテナ船	131	—	483	55,969
一般貨物船	23	299	—	2,227
旅客船	0	0	—	0
その他船舶	0	0	—	0
合計	840	26,852	483	199,748

注 1)通航料は概算値を含む。通航料不明分については0とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

注 2)上記表 c-6.の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 c-5.記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 3)コンテナ船、LPG に対する PC/UMS の取り扱いについては表 b. 注 3)ご参照。

なおパナマ運河全体では、同運河庁発表の 2016 年度実績によると前年度に比べて通航船舶は減少し(前年度比 5.5%減) 13,114 隻、通航船舶トン数 PC/UMS も前年度比 3.0%減となった。また、通航収入についても前年度比 3.1%減の 1,933 百万ドルとなった。

## <スエズ運河>

### d. 通航実績

スエズ運河の利用状況は、通航船社数は前年より2社減の12社となり、利用隻数(延べ)は同比106隻減の1,066隻となった。G/Tベースでも77,900千G/T(2015年:84,711千G/T)、D/Wベースが56,839千D/W(2015年:63,559千G/T)と、ともに前年より減少した。

### e. 通航料支払実績(確認分)

料率の基本となるスエズ運河トン数(SCNT:SUEZ Canal Net Tonnage※2)ベースでは、68,518千トンとなり前年より増加したが、全体の通航料は前年(2015年:375,905千ドル)比約6.3%減の352,215千ドルとなった。

#### d.スエズ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2007	21	1,595	85,595	77,905
2008	22	1,626	91,830	81,048
2009	13	1,248	74,905	64,440
2010	11	1,272	76,517	61,239
2011	9	1,349	87,782	73,878
2012	12	1,246	82,951	69,176
2013	10	1,261	82,520	69,123
2014	13	1,320	89,047	75,644
2015	14	1,172	84,711	63,559
2016	12	1,066	77,900	56,839

#### e.スエズ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千SCNT	通航料	
			千USドル	億円(参考)
2007	1,574	81,839	449,637	530
2008	1,620	90,906	514,002	532
2009	1,149	61,552	370,759	342
2010	1,174	64,831	386,848	338
2011	1,199	66,206	414,365	330
2012	1,101	61,962	395,163	316
2013	1,092	64,006	404,178	395
2014	1,147	71,667	432,862	461
2015	1,037	66,548	375,905	455
2016	1,000	68,518	352,215	381

注1)上記表eの「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表d記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注2)2016年の通航料の円換算率は、2016年1月～12月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=108.29円を採った。

注3)通航料は概算値を含む。通航料不明分については0とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

## f. 船種別内訳 (2016. 1. 1～2016. 12. 31)

船種別でみると、延隻数では、コンテナ船が前年の 442 隻から 383 隻と約 13.3%減となり、通航料も約 12.1%減の 204,870 千ドルとなった (2016 年 : 233,191 千ドル)。また、LNG 船およびタンカーもそれぞれ 79 隻から 62 隻 (約 21.5%減)、17 隻から 7 隻 (約 58.8%減) と減少した。その他船種に関しては大きな増減はなかった。

### f-1. 船種別通航実績内訳

船 種	社 数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	2	7	828	1,022
ケミカルタンカー	3	192	2,621	4,522
LPG 船	0	0	0	0
LNG 船	2	62	7,134	4,599
バルクキャリアー	7	39	2,080	3,882
自動車専用船/RORO 船	5	370	21,919	7,040
コンテナ船	3	383	43,106	35,462
一般貨物船	1	13	212	312
旅客船	0	0	0	0
その他船舶	0	0	0	0
合 計	12	1,066	77,900	56,839

注) 社数合計の 12 は、調査期間中にスエズ運河を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

### f-2. 船種別通航料支払実績 (確認分) 内訳

(通航料=千 USドル)

船 種	延隻数	延千 SCNT	通航料
タンカー	5	503	1,180
ケミカルタンカー	192	2,493	24,093
LPG 船	0	0	0
LNG 船	0	0	0
バルクキャリアー	37	1,984	7,501
自動車専用船/RORO 船	370	22,569	112,803
コンテナ船	383	40,791	204,870
一般貨物船	13	178	1,768
旅客船	0	0	0
その他船舶	0	0	0
合 計	1,000	68,518	352,215

注1) 上記表 f-2. の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 f-1. 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注2) 通航料は概算値を含む。通航料不明分については 0 とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

なおスエズ運河全体では、同運河庁発表の 2016 年実績によると隻数・運河トン数ともに減少し (前年度比それぞれ 3.8%減・2.5%減)、それぞれ 16,833 隻・974 百万スエズ運河トンとなった。

※1 PC/UMS (The Panama Canal/Universal Measurement System) :

1969 年の船舶のトン数の測度に関する国際条約をベースに 1994 年より採用している船舶容積の測定方法。

※2 SCNT (SUEZ Canal Net Tonnage) :

純トン数規則をもとに、スエズ運河当局独自の控除基準を加えて算出する。二重底船の船底にバンカー油を積載した場合その部分の控除を認めない等、パナマ運河や各国の規則とも異なる独特のもの。